

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記号正誤・記号設問・記述設問・論述

分量・難易(前年比較)

分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であったが、論述の総字数は昨年の900字から700字に減少した。

難易度は昨年と比べて変化がなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年に続いて資料を使用した問題が出題されたが、本年は図版を使用した問題は出題されなかった。

昨年はなかった統計資料を使用した問題が出題された。

一昨年・昨年に続いて短文の正誤を判定させる問題が出題された。

出題が10世紀以降、アジア中心に偏っていた。

新課程を踏まえた出題

近世・近代の日本を扱った問題が出題されたが、従来の世界史の知識で解ける問題であった。

その他トピックス

一昨年・昨年に続いて、大問3題のうち1題が外国語学部と別の問題で、他の2題が共通問題であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	論述	クリミア・ハン国 とオスマン帝国・ ロシア (資料使用)	問1 18世紀のクリミア・ハン国(クリム・ハン国)の君主を詠んだ詩を資料に使用して、その処刑された理由を当時の情勢から説明する問題。黒海北岸のロシアの南下と黒海南岸のオスマン帝国との関係を、詩の内容を踏まえて述べなければならないが、クリミア・ハン国に関する記述が教科書に少ないので難しい。 150字程度。 問2 15世紀から17世紀末までのモスクワを中心とする国家の勢力拡大について説明する問題。問われているのは東方の勢力との関係なので、モスクワ大公国のモンゴルからの自立、シベリア進出、ロシア帝国と清との関係を述べればよい。 150字程度	やや難

(II)	記号正誤 論述	イスタンブールの 陶磁器に関連した 歴史 (表使用)	問1 モンゴル帝国時代の東西交流に関する基本的な正誤問題。 問2 15世紀の東南アジアで中国からの陶磁器の輸入が激減した理由を説明する問題。明の海禁策を述べればよい。 50字程度。 問3 17世紀に日本で磁器が国産・輸出される歴史的背景を、指定語句「遷界令」「朝鮮半島」を使って説明する問題。「朝鮮半島」を使って、豊臣秀吉の朝鮮侵攻と関連づけて国産の背景を、「遷界令」を使って、清の鄭氏台湾対策と関連づけて輸出の背景を説明できる。 150字程度。 問4 1873～88年の日本からの陶磁器輸出額の推移を示した統計を利用した、推移の背景に関する正誤問題。選択肢の文に記された年代に注意すれば、統計を見なくても解答できる。	標準
(III)	記述設問 記号設問 論述	澶淵の盟関係史 (資料使用)	問1 資料を読み取ってその名称を問う問題。資料の年代(1004年)と、資料中の「大宋皇帝」「大契丹皇帝」の語から「澶淵の盟」と判断できる。 問2 澶淵の盟と同様の条件で盟約を結んだ王朝を問う問題。北宋が他に盟約を結んだのは西夏しかない。 問3 澶淵の盟が結ばれるにいたった歴史的背景を説明する問題。結ばれるまでの約1世紀間が対象なので、唐の滅亡、契丹の台頭から述べ始めればよい。 100字程度。 問4 澶淵の盟が北宋に与えた影響について説明する問題。多額の歳幣による財政難、その解消のための王安石の新法などについて述べる必要がある。 100字程度。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年の傾向として資料・図版や表・グラフなどが使用されており、戸惑うかもしれないが、問われているのは教科書をしっかり学習していれば十分対応できる内容である。ただ、そのためには資料が何を述べているのかを読み取る国語力、図版や表などから得られる情報と歴史的知識を総合して考える力が必要である。出題地域はアジア・欧米と幅広く、時代的にも古代から現代に及ぶので、教科書中心の丁寧な学習を心がけたい。手薄になりがちな東南アジア史・内陸アジア史・戦後史もしばしば出題されるので、おろそかにしないこと。論述問題については、過去問を参考にして十分に練習しておこう。